教員および授業の概要

①教員名：李 暁東（LI XiaoDong）

②担当科目
・博士前期課程：北東アジア専門講義１２（北東アジア国際関係史）
　　北東アジア研究指導Ⅰ～Ⅳ
・博士後期課程：北東アジア超域研究指導Ⅰ・Ⅱ、特別研究活動

③教員のプロフィール
・1999 年、成蹊大学大学院法学政治学研究科政治学専攻博士後期課程終了。
・博士（政治学）。
・1999 年～2001 年、学術振興会外国人特別研究員（PD）。
・国際関係史、日中政治思想比較専攻。

④所属学会
政治思想学会、アジア政経学会、アジア教育学会、現代中国学会、中国社会文化学会。

⑤研究領域や関心をもっているテーマ
・近代中国と明治日本の啓蒙知識人の儒教に対する「読み換え」
・近代中国の日本留学と思想的連鎖
・中国における「社区」（コミュニティ）建設と自治

⑥研究指導方針
　「西洋の衝撃」を受けた後の北東アジア諸国の近代史が複雑に絡み合っている。この地域の国々にとって、「他者」としての周辺諸国は良くも悪くも自己形成に欠かせない重要な存在であり続けてきた。「他者」を知ることは、自己を知ることであり、「他者」の視点から自己をとらえ直すきっかけになる。北東アジアの将来を展望するには、以上のような歴史的視点と連鎖や、比較の視点が重要だと考える。

⑦指導可能な研究テーマ（あるいは過去（現在）に指導した研究テーマ）
・歴史認識問題をめぐる日中間のずれとその克服
・中国における民族意識の形成と進化論
・清末中国の留学政策に関する考察

・研究のプロフィール

近代中国に対する明治日本の影響という問題関心から、近代日本に留学した中国人留学生や、日本に滞在した中国知識人の政治思想について研究を始めた。とくに、近代中国の啓蒙知識人たちの立憲政治の構想を中心に、明治日本の立憲思想と比較しつつ考察した。それと関連した形で、現在、「ウェスタン・インパクト」のなかで、日中両国の知識人が西洋の「近代」を受容する過程で、それぞれ自分たちのなかの伝統をどのように見つめ直したかについて考えている。啓蒙思想家西周に関する研究や、日中韓知識人の「読み換え」に関する研究はその一環である。また、立憲政治に関する従来の研究の延長として、現代中国における「自治」の問題についても関心を持っている。

・担当する授業の内容

北東アジア地域は現在、一方では、国民国家の機能を相対化するグローバル化の波にさらされつつも、他方では、歴史問題や、冷戦の遺産をいまだに引きずっている。このようなあい反する状況が並存しているなかで、この地域の将来を展望するために、とりわけ近代から複雑に絡み合っている北東アジアの歴史を構造的に把握することが重要である。

近代の北東アジア地域は、「万国公法」に象徴される近代国家システムの受容と、中華世界システムの崩壊の過程にあり、この時期の国際関係は、すなわちこの二つの世界観がぶつかり合ったなかで展開されたものであった。そして、その展開の過程で、北東アジア地域は「ウェスタン・インパクト」に強く影響された一方、この地域におけるそれぞれの国の政治的激動や、文化伝統によって規定されていた。演習は以上のような「新・旧」と「内・外」の視点からこの時期の北東アジア国際関係史をとらえたい。

それに関連して、北東アジアにおける思想的連鎖という問題意識を念頭に、北東アジアにおける多様な伝統に目を配りつつ、儒教という共通した伝統をベースにして、１９世紀末期の東アジアにおける近代の中、日、韓の諸国の知識人たちがどのように儒教を中心とした伝統を生かしながら「近代」を受容し、また、「近代」を借りて儒教思想をはじめとした伝統を読み換えたかについて考えたい。具体的に、日本では、幕末の佐久間象山や、横井小楠、明治の福沢諭吉や、西周、中国では、厳復、梁啓超などの啓蒙思想家を取りあげて、国境を越えた意味での北東アジアのなかで思想家たちの意義を考えたい。

・どのように研究指導を行うか

問題意識や、方法論の確立能力と、研究対象を多角的、立体的に分析する方法を、院生の各自のテーマに沿って一緒に考えていく。

・学生に期待すること

「学而不思則罔、思而不学則殆」（学びて思わざれば則ち罔〔くら〕し、思ひて学ばざれば則ち殆〔あやう〕し）